

## 1.2 文法化とは？

function word は content word を起源に持つ

clitic : 接語. 縮約形のこと. autonomous word と affix の間.

### cline

cline : 形式は突然別のカテゴリに変わるわけではなく, 小さな遷移を繰り返す. そのプロセスのことを cline という. 通時的には formsm が変化する道筋のことを比喩的に言ったものである. 共時的には, 理想的な文法化の一連の流れにおける, 各形式の置かれ方のことである.

連続的な推移は, 以下のようになっている.

*contentful/lexical → grammatical → clitic → inflectional*

推移には, 一方行性 (unidirectionality) の強い傾向がある.

### Periphrasis V.S. affixation

同じカテゴリを表現するが, cline 上の異なる場所に位置する, 二つの表現方法がある. 一つは迂言化 (periphrasis), もう一つは接辞化 (affixation) である.

- periphrasis は遠回しに, つまり語彙的な要素を加えることで tense や aspect を表現するやり方である.
- affixation は affix や, 語の内的な変化によって tense や aspect を表すやりかたである. その語のカテゴリは host に強く結びつく.

興味深いのは, 迂言化した構造は癒合し, いずれ形態的になるということ.

### Lets

let's は lets に変化している. これは us がもはや clitic ではなくなり, let に癒合したと考えることができる. また, let's が許可の意味だけでなく, suggestion, encouragement の意味を持つようになっている. このように, 文法化の初期段階においては, 特殊な文脈において意味変化が伴う.

### complementizer

動詞が接統詞に変化する例.

(1) I know that her husband is in jail.

この文の know のような動詞のことを matrix verb という. that 節のことを complementizer clause という. 次の例では, say のような発話同士が complementizer として機能している.

(2) If/Say the deal falls through, what alternative do you have?

say の意味は「言う」という意味よりも広がっている. しかし文法化によって変化するのはいずれの意味だけではない. 二つの独立した節が, complementizer clause を持った matrix verb として再分析される.

### 3.4 再分析と文法化は独立の現象である

再分析のすべてが文法化なのではない。house wife→hussy などの変化は、語と語が結びついて一つの語になっており、これは語彙化 (lexicalization) とみなせる。

再分析は、時として文法的な変化を伴うが、必ずしも lexical→grammatical という方向が保たれるわけではない。もともと up は副詞だが、to up the ante など、動詞として使うことができる。このような変化を品詞転換 (conversion) という。

#### word-order change

問題となるのは、語順変化は再分析と文法化のどちらも例証するのか、文法化を伴わない再分析を例証するのかということである。

語順変化は、一方向性を持たないため、狭い意味では文法化とはいえない。しかし広い意味での文法化に属すると言える。広い意味での文法化とは、morphosyntactic (形態・統語両面での) な要素の組み合わせとして定義される。

VO 言語は前置的で、adjectives, relative clauses, and possessives は名詞の後ろに置かれる。また、助動詞はメイン動詞の前に現れ、疑問詞は節の最初に現れる。OV 言語はその逆の特徴を持つ。つまり語順は文法構造や形態的な特徴に影響する。

OV 言語において、接辞化が起こる際には、すでに文法的な要素の再分析が行われる。一方で、OV から VO への語順変化の際には、lexical な要素を grammatical な要素として再分析することが行われる。

### 3.5 類推 analogy/rule generalization

再分析とは、すでにある構造を新たな構造に置き換えることであり、再分析は covert な変化である。一方で、類推とは現存の構造をすでにある構造に近づけることである。例えば、発話同士を (すでに存在する) 補文標識という構造だとみなす、など。これは際立った (overt) 変化である。再分析は一列になった構成要素の関係についての変化であり、統合的 (syntagmatic) である。類推は、系列的 (paradigmatic) である。

不規則変化が規則変化に変化するという現象は、狭い意味での類推である。(例: cat:cats から, child:X の X は childs と類推する←これは proportion あるいは equation と呼ばれる)

この定式化の難点は、モデルとして選ばれた方がなぜモデルとして選ばれたのかの説明がつかないからである。

類推はのちに、比較的制限された規則をより広い規則へと一般化/最適化することとして再定義された。もちろんいずれの定義にせよ、例外は存在する。(例: foot-feet, mouse-mice...)

### 5.3 Decategorization

ある形式に対して、decategorization を帰する際、形式が崩れていくプロセスを追うのではなく、機能がどのように変化したのかを辿る。Decategorization においては、cline の視点は full categories (名詞, 動詞) であり、変化の中間においては、その範疇に関わる形態素が失われるのが特徴的である。

## 5.4

典型的な文法化プロセス 3 つ

- specialization... 複数の要素のうち、一部のみが完全に文法化する.
- divergence... less grammatical な形式から、その特徴を保った形式と、より grammatical な形式との二つに分岐する.
- renewal... 同じことを言うのに、より表現力の高い方法が見つかり、古い形式から新しい形式へと置き換えられる.

### specialization

specialization は、ふつう意味の変化も伴う. フランス語の *pas* は、他にも色々候補があった中から唯一、否定を強調する語として完全に文法化し、また、本来の意味 *step* も残っている. さらに、音韻的な変化や、隣接する語との癒合は起こっていない.